別紙①

伏屋の地芝居衣装一覧

番号	写真	衣裳名	ふりがな	特徴	用途・役柄	年代
1		浅黄色 繻子地 金繍　雁木文 奴着付 金繍輪つなぎ文衿付	あさぎいろ しゅすぢ きんしゅう　がんぎもん やっこきつけ きんしゅうわつなぎもんえりつき	袖口についた雁木文は若さを表す紋が虎という文字であることから演目がわかる。	鬼一法眼三略巻・菊畑 虎蔵	明治中期
2		緋色 木綿地 金糸台付繍　獅子牡丹文 四天 金馬簾付	ひいろ もめんぢ きんしだいつきしゅう　ししぼたんもん よてん きんばれんつき	唐獅子牡丹は華やかさと強さを表している。獅子の目には銅板がはめ込まれている。	若く勇壮な武士	明治初期
3		浅黄色 繻子地 金糸台付繍 波に龍文 俎板帯	あさぎいろ しゅすぢ きんしだいつきしゅう なみにりゅうもん まないたおび	水の中から現れる龍は一番の隆盛を表す。龍の目にはギヤマンがはめ込まれ血走った目が表現されている。	高位の花魁	江戸後期から明治中期

別紙①

伏屋の地芝居衣装一覧

番号	写真	衣裳名	ふりがな	特徴	用途・役柄	年代
4		黒天鵞絨地 金糸台付繍 龍虎文 四天 金馬簾付	くろびろーどぢ きんしだいつきしゅう りゅうこもん よてん きんばれんつき	背面に龍虎がにらみ合う形の図柄は強さを意味している。龍の目には銅板がはめ込まれている。	児雷也など妖術使い 勇壮な武士	江戸後期から明治中期
5		黒天鵞絨地 台付繍　雪持松文 羽織	くろびろーどぢ だいつきしゅう　ゆきもちまつもん はおり	雪持松を配した図柄は松王丸の心情を表している。	菅原伝授手習鑑・寺子屋 松王丸	明治中期から大正
6		黒繻子地 金繍 亀甲木瓜文 羽織	くろしゅすぢ きんしゅう きっこうもっこうもん はおり	総金コマ刺繍のこの羽織はかなり高度な熟練した技術で作られており高価。	寿曽我対面・工藤館 工藤祐経	明治中期

別紙①

伏屋の地芝居衣装一覧

番号	写真	衣裳名	ふりがな	特徴	用途・役柄	年代
7		千草色 繻子地 金糸台付繍 蝦蟇・蛞蝓文 打掛	ちくさいろ しゅすぢ きんしだいつきしゅう がま・なめくじもん うちかけ	蝦蟇にとって天敵の蛞蝓を配した図柄はとても珍しい。首周りの蛇の目傘と柳の枝が花魁らしい雰囲気を出している。	高位の花魁	江戸後期から 明治中期
8		韓紅花色 羅紗地 金糸台付繍 獅子牡丹文 打掛	からくれないいろ らしゃぢ きんしだいつきしゅう ししぼたんもん うちかけ	いわゆる石橋の故事を現した文様でどんなことにも屈しない強い意思を表す。牡丹の花の花芯にはおそらく鏡がはめ込まれていたと思われる。目にもギヤマンがはめ込まれている。	高位の花魁 揚巻・高尾太夫	明治初期
9		栗皮色 繻子地 金糸台付繍 万年亀文 伊達下り	くりかわいろ しゅすぢ きんしだいつきしゅう まんねんかめもん だてさがり	縁起の良い万年亀の文様は変わらぬ忠誠心を表している。	勇壮な武士 四天の下につける	江戸後期から 明治中期

別紙①

伏屋の地芝居衣装一覧

番号	写真	衣裳名	ふりがな	特徴	用途・役柄	年代
10		焦げ茶色 木綿地 金繍　獅子文 千早	こげちゃいろ もめんぢ きんしゅう　ししもん ちはや	台付金コマ刺繍と直金コマ刺繍によって全面に施され他刺繍はかなりの技術である。強い勇者が四天の下や鎧下の上に着こむもの。後ろ身頃左裾に「中山」の刺繍あり。	勇者や妖術遣い	江戸後期から 明治中期
11		赤色地 金糸台付繍 笹竜胆文 役襦袢 浅黄色繻子地金繍 輪繋文 伊達衿付き	あかいろぢ きんしだいつきしゅう ささりんどうもん やくじゅばん あさぎいろしゅすぢ きんしゅう わつなぎもん だてえりつき	施された笹竜胆文は役柄を表している。伊達衿から若い武者の役柄が想像される。	演目不明 伊達奴など	明治中期から 大正
12		赤色 モス地 金繍御所車文 伊達下り 金馬簾付	あかいろ もすぢ きんしゅうごしょぐるまもん だてさがり きんばれんつき	四天の下に化粧ふんどしとして用いられる。モス地のため劣化が激しい。	狐忠信など	明治中期

別紙①

伏屋の地芝居衣装一覧

番号	写真	衣裳名	ふりがな	特徴	用途・役柄	年代
13		黒地 金繍 龍に笹・浪文 俎板帯	くろぢ きんしゅう りゅうにささ・なみもん まないたおび	位の高い傾城が着用する前垂れ帯。権勢を誇る気位の高さを表す。胴に巻く部分がない。	虎御前など	明治中期から大正
14		黄色地錦 火焔太鼓・鳳凰丸文 陣羽織 瑞雲に龍丸文衿付き	きいろぢにしき かえんだいこ・ほうおうまるもん じんばおり ずいうんにりゅうまるもんえりつき	武将が鎧の上から羽織るもの。戦の場面で用いられる。	戦物色々	明治中期から大正

四天(よてん)　勇士・山賊・海賊・捕手などの激しく体を動かす役の着る、広袖で左右の裾が割れている衣装。

俎板帯(まないたおび)　帯は通常は後ろで結ぶが、俎帯は胸の前で結ぶ遊女特有の帯。手の込んだ豪華な刺繍でボリュームもある。

打掛(うちかけ)　女性の着物の種類の一つで、着付の上にはおり、権威を表す。本来は春、秋、冬の衣料。

伊達下り(だてさがり)　褌の前に垂らした布をいい、股間を覆うもの。勇者が用いる。

千早(ちはや)　神事の際に用いられ、貫頭衣の名残とされる。芝居では勇者が戦いの衣裳の上の重ね着、あるいは四天の下に着こむもの。

陣羽織(じんばおり)　戦国時代に武将が具足(ぐそく)の上に羽織った衣服で、胴服などに由来するものとされる。